

## 1. 緒言

企業や学校の宣伝手法として一般的となった Web ページだが、検索エンジンを使用した際、下位ランクに表示されるようではなかなかアクセスには繋がらない。そこで、Web ページを工夫し検索結果を上位にする手法として、SEO(検索エンジン最適化)が注目され、これをビジネスとする企業も登場している。しかし、google,yahoo,MSN などの検索エンジンはアルゴリズムを公表していないため、有効とされている項目は本当に効果があるのか、信憑性は低い。そこで本研究では、SEO で一般的に良いとされている項目を盛り込んだホームページを作り、実際に効果があるのかを検証する。

## 2. 研究のアプローチ

本校の情報工学科を紹介するホームページを自作し、同じ内容で画像を沢山使用したものや SEO 対策(表1参照)を行ったものなど、5 種類ほどのホームページを作る。作成したホームページを同時に公開し、検索を掛けた際に何位に表示されるかを調査する。

表1. 検証する SEO 項目例

TITLE タグ内の検索語句
META タグ内の検索語句
H1~3 見出しタグの使用
強調<S> タグの使用
FRAME タグの使用

これらの点に注目して、5 種類のホームページを作成した(表2参照)。

表2. 作成したホームページ例

文章を多く使用し、SEO 対策を行ったもの
画像を多く使用し、SEO 対策を行ったもの
文章を多く使用し、SEO 対策を行わないもの
画像を多く使用し、SEO 対策を行わないもの
スパムと呼ばれる手法を使用したもの

## 3. 作成したホームページについて

5 種類のホームページは外見と内容はほとんど変えず、ソース部分に大きく特徴が出るようにした。図1はフレームを使用し、ヘッダ・サイドバー・コンテンツと3つのHTMLファイルから作成されている。図2はフレームを使用せず、CSS を使ってヘッダとサイドメニューを表示している。また、図2の丸で囲んだ部分は文字ではなく画像を使用している。

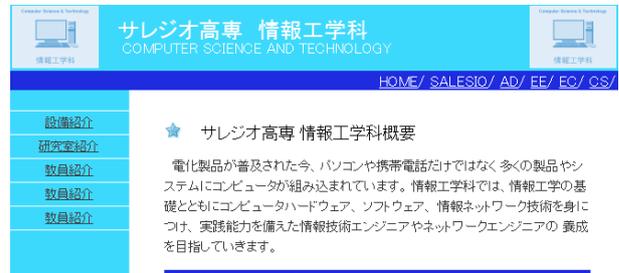


図1 文章を多く使用し、SEO 対策を行わない HP



図2 画像を多く使用し、SEO 対策を行った HP

## 4. 結果

ホームページを作成し、公開するまでに至ったが、google, yahoo, MSN 等の検索サイトへ登録されるまで時間を要するため、検索を掛けて何位に表示されるかを検証することができなかった。

検索結果に反映されるようになる時間を短縮するには、大きなサイトからのバックリンクとコンテンツの充実が必要であるため、トップページのみでなく、学科制作のホームページとして実際に使えるようなホームページを作り、その後で SEO 対策等を施した方が良いとの結論を得た。

## 5. 今後の発展

今回の研究では HTML タグと CSS、文字数と画像数の関係に観点をおいてホームページの作成を行った。SEO の内部要因には、様々な項目が存在するため、別の観点で SEO 対策を行い検証する必要もある。特に、バックリンクとアクセス率に関しては外部からの要因になるため、自ら検証することは難しいが、google に登録される際の評価にも言われているので、ぜひ今後も SEO を研究する機会があれば検証して頂きたい。

## 文献

- [1] エビスコム【HTML&スタイルシート デザインブック一付録 CD-ROM のテンプレートですぐできる】ソシム(2004)pp1-319